

日産財団では、理科教育助成において多大な成果をあげ、かつ 成果の波及効果が期待できる研究実践に取り組んだ助成校・団体を「理科教育賞」に選定し、その中でも特に優れたものに、「大賞」を授与している。

本年度は、2019.1.1～2021.12.31の3年間(COVID-19の影響で期間を1年延長)に助成を受けた2018年度理科教育助成校・団体が提出した中間報告書と成果報告書を選考委員が評価し、5月の選考委員会において、神奈川県16校、福岡県6校、栃木県5校、福島県8校、合計35校の中から、第9回日産財団理科教育賞大賞候補として4校を選定した。

【第9回理科教育賞 大賞(楯と副賞100万円) 1校】

●福岡県 行橋市立中京中学校:

助成をうまく利用した、また地域の特性を活かした活動として評価する。1年目に招聘した専門家の知識を学習し、今後専門家の協力なしでも継続できる仕組みを構築している点や、文化発表会などで地域ぐるみの活動へ持って行こうとしている点も評価できる。さらに、水槽での単なる飼育から人工繁殖のための環境を考えさせる点などは、食物連鎖や他の生物との関係の生きた教育実践として高く評価する。マンネリ化せず、生徒のモチベーションを維持できる仕組みの構築等を含め、今後とも活動を継続いただきたい。

【第9回理科教育賞(楯と副賞50万円) 3校】

●福島県 相馬市立桜丘小学校:

申請書で設定した、「主体的な取り組み」、「科学的な見方」、「自然への畏敬など」を児童に身につけさせる授業を行うための3つの仮説の検証に向け、様々な単元で授業が実践されたことが報告書から読み取れる。また実践結果を具体的に評価しようとしている姿勢も評価できる。今後、本助成の補助で導入された機器を活用し、授業改革を推進されたい。

●神奈川県 川崎市立東菅小学校:

学習過程モデルに基づき、様々な単元について「教科・単元の本質」に迫る授業を構築している点や、実践成果の測定のためのアンケートの実施など、実証的に成果を評価しようと取り組んでいる点を評価する。また、「話形」を準備して、説明することになっていない児童に発言を促す工夫をしている点なども評価できる。

●栃木県 栃木市立栃木中央小学校:

児童個人の発達の特性を診断し、それに対応する手立てや工夫を授業で試み、その結果を評価するなど、ユニバーサルデザインに視点をあてた授業作りが、多くの学年、多くの単元で多彩に展開され、成果が

出ていることを評価する。「すくすくシートUD」の更なる活用や、中間報告書にある「理科授業UD実践事例集」の作成など、今後の継続した活動に期待したい。

【第9回理科教育賞 ポスターセッション賞（楯と副賞20万円）1校】

神奈川県 愛川町立中津第二小学校:

児童が主体的にICT教育に関わっていることが伝わってくる良いポスターである。ポスター内容も具体的であり、投票者からも、「本校でも多いに参考にさせていただいた」、「取組を常に発信している姿勢が素晴らしい」、「発達段階を考慮したプログラミングの実践が分かりやすかった」「プログラミング教育の在り方が具体化されていた」等、高評価を得ており、今後とも継続して成果を発進していただきたい。